

団体名	伊勢鉄道株式会社
-----	----------

【経営基本情報】

団体の基本情報

所在地	鈴鹿市桜島町一丁目20番地		
HPアドレス	http://www.isetetu.co.jp		
電話番号	059-383-2112	FAX番号	059-383-2112
設立年月日	昭和61年10月1日		
代表者	代表取締役社長 森井 修治	県所管部等	政策部
県出資額	144,000,000 円	県出資割合	40.0 %
団体の目的	地方鉄道事業 他の鉄道事業者からの委託業務の請負業 道路運送法に基づく自動車運送業 旅行業法に基づく旅行業 貸自動車業及び駐車場の経営 広告宣伝業 損害保険代理業 食堂喫茶店の経営並びに飲食料及び日用雑貨品小売業 前各号に付帯関連する一切の事業		

主な事業内容

[事業規模(事業費)]

(単位:千円)

事業名	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
(1) 鉄道事業等	604,110	614,158	615,534	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	
(2)				
全事業合計に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
(3)				
全事業合計に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
(4) (1)～(3)以外の事業				
全事業合計に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
全事業合計	604,110	614,158	615,534	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	

[事業の概要]

- (1) 旅客輸送
- (2)
- (3)
- (4)

役職員の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
常勤役員	2人	2人	2人	
うち、県退職者	0人	0人	0人	H20平均年齢 : 64.0 歳
うち、県派遣	0人	0人	0人	H20平均年収 : 8,976 千円
常勤正規職員	30人	29人	31人	
うち、県退職者	0人	0人	0人	H20平均年齢 : 59.5 歳
うち、県派遣	0人	0人	0人	H20平均年収 : 5,066 千円
その他職員	4人	4人	4人	パート社員
うち、県退職者	0人	0人	0人	

派遣職員は含まない

団体名	伊勢鉄道株式会社
-----	----------

○財務概況

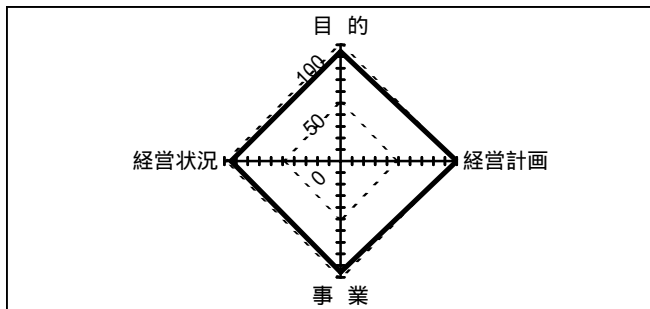
		(単位:千円)	平成18年度	平成19年度	平成20年度
損益計算書	営業利益(損失)	売上高 (a)	604,110	614,158	615,534
		売上原価 (b)	470,878	471,294	471,409
		販売費・一般管理費 (c)	116,677	112,843	110,520
		(d) = (a) - (b) - (c)	16,555	30,021	33,605
	経常利益(損失)	営業外収益 (e)	262	1,319	744
		営業外費用 (f)	3,858	3,510	3,018
		(g) = (d) + (e) - (f)	12,959	27,830	31,331
	当期純利益(損失)	特別利益 (h)	66,950	35,465	291
		特別損失 (i)	68,930	34,280	0
		法人税等 (j)	290	7,100	13,743
	(g) + (h) - (i) - (j)	10,689	21,915	17,879	
貸借対照表	資産	流動資産	298,692	234,183	269,601
		固定資産	368,846	357,180	325,297
		繰延資産	7,757	7,287	6,711
	資産合計		675,295	598,650	601,609
	負債	流動負債	174,759	90,636	86,336
		固定負債	76,377	61,940	51,320
		計 (l)	251,136	152,576	137,656
	純資産	資本金(基本金)	360,000	360,000	360,000
		剰余金(累積欠損金)等	64,159	86,074	103,953
		計 (m)	424,159	446,074	463,953
負債・純資産合計	(l) + (m)	675,295	598,650	601,609	

主な指標	自己資本比率	純資産 / (負債 + 純資産)	62.8%	74.5%	77.1%
	流動比率	流動資産 / 流動負債	170.9%	258.4%	312.3%
	借入金依存率	借入金残高 / (負債 + 純資産)	10.8%	9.6%	7.6%
	売上高営業利益率	営業利益 / 売上高	2.7%	4.9%	5.5%
	総資産経常利益率	経常利益 / 資産合計	1.9%	4.6%	5.2%
	人件費比率	人件費 / 売上高	31.7%	31.0%	32.2%

県からの財政的支援等	委託料	千円	0	0	0
	補助金・助成金	千円	37,000	17,140	0
	負担金	千円	0	0	0
	借入金(期中に借り入れた額の合計)	千円	0	0	0
	その他県支出金(追加出資額等)	千円	0	0	0
	計	千円	37,000	17,140	0
	借入金残高(期末残高)	千円	0	0	0
	債務保証額(期末残高)	千円	0	0	0
	損失補償限度額	千円	0	0	0
	損失補償契約に係る債務残高(期末残高)	千円	0	0	0

団体名	伊勢鉄道株式会社
-----	----------

【団体自己評価結果】



	18年度		19年度		20年度	
	比率	評価	比率	評価	比率	評価
目的	94	A	94	A	94	A
経営計画	100	A	100	A	100	A
事業	96	A	96	A	96	A
経営状況	89	B	94	A	94	A

A(90%～100%):良好な事象や傾向がみられる
C(30%～59%):改善を要する

B(60%～89%):やや良好な事象や傾向がみられる
D(0%～29%):大いに改善を要する

【団体自己評価コメント】

平成20年度コメント	
目的	当社は、昭和61年10月に地域の交通便利性確保及び地域間の交流拡大・連携強化により県全体の更なる発展を期す目的で第三セクターとして設立された。環境に優しい交通機関として、また、急速に開発が進む沿線の移動手段として、その役割は益々重要となってきている。
経営計画	当社は「輸送の安全確保」を柱に「経営基盤の整備」「増収対策の推進」を完遂すべき目標として取り組んでおり、平成20年度の安全施策5件の進捗率は100%であった。また、増収施策もJR東海との連携施策が確実に定着して効果を上げており、経営基盤も着実に強化されつつある。
事業	秋以降、全国的な経済不況に伴う出控え等で、特急「南紀」の輸送量が大きく落ち込んだが、快速「みえ」が堅調に推移し、総輸送量は1,659千人と目標を1.3%上回った。少子化等により通学定期は減少傾向にあるが、接続改善等により通勤定期が対前年比17%増加した事は特筆される。
経営状況	当期経常利益は、後半の経済不況に伴う出控え等による減収分を貨物列車の運行開始に伴う線路使用料収入の増加や経費の削減によりカバーし、31,331千円の黒字となった。これにより利益剰余金は103,953千円となり、経営基盤が強化された。

総括コメント	当期間、重大な運転事故や災害、インシデントの発生は無く、経営の根幹である「輸送の安全」を確保できた。また、厳しい経済環境の中、収入は対目標99%となったが、経費を96%に削減するなどの経営努力により、経常利益は目標を大きくクリアした。 経済不況の出口が見えず、輸送量の減少が見込まれる厳しい経営環境が続くと予想されるが、今後、各種老朽設備の取替や、より保安度を高めたATS装置の導入等の経営課題をクリアしつつ、会社設立の目的を全うすべく引き続き取り組んでいく。
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【団体の達成目標】

年次事業計画による達成目標
(定性目標)

平成20年度目標	無事故の継続 橋梁の改修 東一身田～津間通信ケーブル取替 トング レール交換 社員の高齢化に伴う要員確保の調整 環境整備経費の節減
平成20年度実績	～ 計画通り完了 駅・運転士・工務各1名採用(当期末退職者:3名) 社員直 轄の全体作業により、約12,000千円を節減(沿線の除草及び雑木伐採 20回/年)
平成21年度目標	車両の改良更新(2両・ATS-PT新設・運転状況記録装置新設・防護無線バックアッ プ設備新設) ホーム修繕(2駅) 要員の確保 F1輸送の無事故完遂 環境 経費の節減

(定量目標)

指標	数値目標	単位		平成19年度	平成20年度	平成21年度
輸送人員	1,662	千人	目標	1,523	1,638	1,662
			実績	1,631	1,659	
収入	601,470	千円	目標	578,175	620,097	601,470
			実績	615,477	616,278	
経費	596,120	千円	目標	577,730	606,684	596,120
			実績	587,647	584,947	

中長期計画による達成目標

通信ケーブル取替(H20～H23) 車両の改良更新(ATS-PT・運転状況記録装置・防護無線バックアップ設備の新設 H21～H22) F1輸送の無事故完遂(H21以降隔年) 鉄道運転事故の無事故継続

団体名	伊勢鉄道株式会社
-----	----------

【知事等の審査及び評価結果】

+ : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)
 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)
 空白: 団体自己評価結果と概ね同じ評価

	18年度	19年度	20年度	20年度コメント
目的				県南北を結ぶ幹線鉄道を担うという役割、また、公共交通機関として高齢者や学生等、他に移動方法を持たない方々の移動手段としての役割を果たしている。
経営計画				中長期計画を定め、それを年次計画に反映させ事業を進めていることは評価できる。 公共交通を取り巻く状況は厳しいが、今後も安全・安心の確保に重点を置くとともに、利用促進や更なる経営改善に向けた取組が進むような計画を定めていく必要がある。
事業				平成20年3月より、新たな収入確保策として貨物列車の定期運行を開始するなど、新たな収入確保を進めている。 また、沿線の草刈を社員で行うなどの経費節減により、経済不況の影響による減収分を補っている。
経営状況				JR東海との協調による積極的な事業展開により、平成19年度を上回る3,133万円の経常黒字を計上した。 今後も、公共交通を取り巻く厳しい経営環境を踏まえ、利用促進の取組、事業の効率化等により、継続して経常損益がプラスとなるように業務を運営していくことが必要である。

(知事等の総括コメント)

平成20年度に掲げた定性目標、定量目標(輸送人員・経費)を達成できたことは評価できる。定量目標(収入)については、年度後半の経済不況の影響による減収等で達成できなかったが、貨物列車の運行開始に伴う線路使用料収入等によりカバーし、3年連続の黒字を計上している。このことは、全国的に鉄道事業が厳しい経営環境にあるなか、積極的な事業展開による経営努力の結果であると評価できる。

また、平成20年度中長期計画に掲げた目標についても、橋梁改修、通信ケーブル取替は平成20年度に実施され、ATS改良については平成21年度目標に定められていることから、計画は進んでいると評価できる。引き続き、目標達成に向けての取組が望まれる。

しかし、今後も公共交通機関を取り巻く経営環境には厳しいものがあり、老朽設備の維持更新に多額の費用が必要となるなど、更なる経営の安定化を図る必要がある。

このため、利用者の安全・安心を確保するための老朽設備の維持更新や、利用者の声を経営に反映させるなど利便性の向上の取組に努めることで、かけがえない身近な鉄道として利用者に親しまれる不断努力が望まれる。